

JA全農ウィークリー WEEKLY

3面

酪農家が学生に酪農の魅力伝える 大学では初の「酪農の夢」出張授業

8面

全農エネルギー(株) 高压ガス保安経済産業大臣表彰受ける



経産大臣表彰を受ける全農エネルギー(株)坂出LPガス輸入基地の北村所長(8面)



滋賀県のJA東びわこ管内で、9月の台風21号の影響で倒壊したハウスパイプを撤去する彦根東高校の野球部員(5面)



大学では初となる日本獣医生命科学大学で開いた「酪農の夢」出張授業に出席した学生ら(3面)

- 2 中国国際輸入博覧会で日本の米、加工品PR(輸出対策部)
エスディーシーズ
SDGs 達成に向けた人口と食料安全保障会議Ⅲで全農の取り組み発信(耕種総合対策部)
 - 3 第9回ファーマーズ&キッズフェスタ2018に出展(TAC 推進課)
 - 4 岩手県JAいわて平泉ブランド米部会がアジアキャップ ASIAGAP団体認証(岩手県本部)
福岡マラソン、戸田マラソンで焼き餅配布(米穀部)
 - 5 「中研フェア」で研究内容や国産農畜産物紹介(飼料畜産中央研究所)
高校球児が台風被害農家の復旧を支援(広報部)
 - 6-7 特集：営業開発部 スタートから1年(営業開発部)
 - 8 ガス機器メンテナンス講習開催(営農・技術センター)
 - 9 JAズームイン(JA夢みなみ)
 - 10 県本部だより(新潟県本部)
 - 11 青果情勢(園芸部)
 - 12 「旬鮮倶楽部」2019年度カタログ完成(生活リテール部)
- JAタウンショップ紹介
にじ農業協同組合(福岡県)

Web版JA全農ウィークリーはこちら



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

全農



中国国際輸入博覧会で日本の米、加工品PR



中国への輸出目標共有覚書を現地最大商社と締結

輸出対策部



第1回中国国際輸入博覧会に出展した全農ブース

全農は11月5〜10日、中国・上海の国家会展で開かれた「第1回中国国際輸入博覧会」に出展、日本産米・加工品の商談、PRを行いました。

同博覧会は、東京ドーム約5倍の広大な会場に150以上の国・地域から3600社以上が出展、来場者は80万人を超えました。国家規模では世界初とされ、開幕式で習近平国家主席が基調講演を行うなど、中国政府は積極的な市場開放をアピールしました。

「もう、食べてもらう」を合言葉に、日本産米などの認知度向上、新たな販路開拓に取り組みました。

また博覧会で、全農と中粮集团有限公司（中国最大の商社）と、国産米の中国への輸出目標を共有する覚書を締結するなど、さらなる輸出拡大へ歩みを進めました。

全農は博覧会で商談した各バイヤーに、今後も継続して具体的提案をすすめ、取引実現・拡大を目指すことも、国産農畜産物の一層の輸出拡大に向け、eコマースなどを通じた最終消費者への販促活動も強化していきます。



国産米の中国への輸出目標を共有する覚書を締結した中粮集团有限公司の于旭波総裁（左）と全農輸出対策部の上野一彦部長



SDGs達成に向けた人口と食料安全保障会議Ⅲで全農の取り組み発信

持続可能な農業生産・農業経営について久保常務が講演

耕種総合対策部

公益財団法人アジア人口・開発協会（APDA）が11月6日、東京都千代田区の衆議院第一議員会館で開催した「持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けた人口と食料安全保障会議Ⅲ」に、全農の久保省三常務理事が招待を受け、講演しました。

SDGsとは2015年9月の国連サミットで、国連加盟193カ国が2016〜2030年の間の達成を目指して掲げた目標です。「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」など17の目標からなります。

このイベントは、人口と食料安全保障をテーマとし、栄養の確保という食料の安全保障から見た質の問題や、環境、水資源の制約の問題を議論するもので、今回で3回目となります。

久保常務は、「日本農業の現状とこれから」をテーマに、生産と消費を取り巻く環境について説明し、「TAC、業務用向け多収米提案、農業ICTによる営農支援、労働力支援などの取り組みを通し、持続可能な農業生産・農業経営を確立していきたい」と全農の取り組みをアピールしました。



全農の取り組みについて説明する久保常務



SDGs達成に向けた人口と食料安全保障会議Ⅲは福田康夫元首相や国会議員も参加



酪農家が学生に酪農の魅力伝える

大学では初の「酪農の夢」出張授業

酪農部

酪農部は11月9日、東京都武蔵野市の日本獣医生命科学大学で「酪農の夢」出張授業を開きました。

「酪農の夢」出張授業は、2015年から日本コカ・コーラ株式会社と共催で酪農の次世代育成を目的に開いているもので、今回で12回目となります。これまで農業高校等で開催してきましたが、今回初めて大学で開き、動物科学科3年生約100人が出席しました。

同大学の卒業生でもある、酪農部の玉川聡美職員が国内酪農の現状や全農の酪農事業を説明した後、6次産業



国内酪農の現状などを説明する酪農部の玉川職員

に取り組む山田牧場（滋賀県）従業員の長崎さん、放牧酪農を営む浅野牧場（北海道）従業員の藪内さんの女性酪農家2人が、酪農に従事するまでの経緯、酪農の魅力ややりがいなどを講演しました。

出席した学生からは、「酪農女子はすてきで格好いい」「酪農に従事する夢を実現したい」「日本の酪農業界を盛り上げる仕事に就きたい」との声もあり、進路を考える上で貴重な授業となったとの感想をいただきました。



学生の質問に答える酪農家の藪内さん（左）と長崎さん

都会の子どもたちに農業の魅力をPR

第9回ファーマーズ&キッズフェスタ2018に出展

TAC 推進課

「第9回ファーマーズ&キッズフェスタ2018」農業と子供の元気が、日本を元気にする」が11月10、11日、東京の日比谷公園で開かれ、天気にも恵まれて2日間で5万4180人（速報値）が来場しました。

全農ブースでは子どもたちに、国産の農産物をより身近に感じてもらえるように野菜の詰め放題や折り紙で野菜を作る折り紙教室を開催し、大盛況でした。またクイズを通して全農やTACの取り組みを知っ

てもらったコーナーを設けたり、国産原料を使った全農ブランド商品の販売も行いました。TAC推進課ではこれからも、生産者と生活者が互いを共感できるようなイベントを実施していきます。



人気を集めた野菜の詰め放題



折り紙で野菜作りを体験する子どもたち



都会の子どもたちに農業の魅力をPR

第9回ファーマーズ&キッズフェスタ2018に出展

TAC 推進課

「第9回ファーマーズ&キッズフェスタ2018」農業と子供の元気が、日本を元気にする」が11月10、11日、東京の日比谷公園で開かれ、天気にも恵まれて2日間で5万4180人（速報値）が来場しました。

全農ブースでは子どもたちに、国産の農産物をより身近に感じてもらえるように野菜の詰め放題や折り紙で野菜を作る折り紙教室を開催し、大盛況でした。またクイズを通して全農やTACの取り組みを知っ

てもらったコーナーを設けたり、国産原料を使った全農ブランド商品の販売も行いました。TAC推進課ではこれからも、生産者と生活者が互いを共感できるようなイベントを実施していきます。



人気を集めた野菜の詰め放題



折り紙で野菜作りを体験する子どもたち



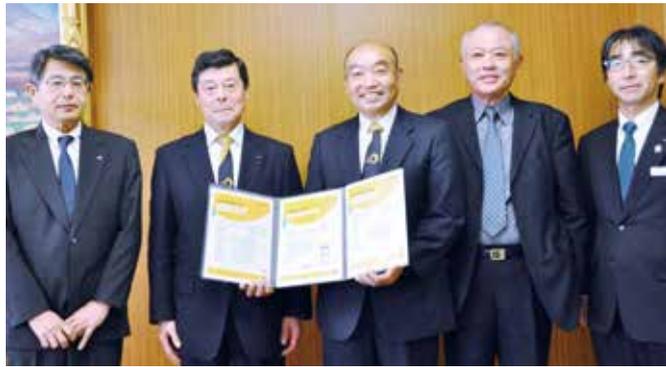
岩手県JAいわて平泉ブランド米部会がASIAGAP団体認証

JAグループGAP支援チームや県・JA全農いわて・県中央会の支援で団体認証県内初 岩手県本部

岩手県JAいわて平泉ブランド米部会員9人は、10月16日付で県内初のASIAGAP団体認証を取得しました。

今回の認証取得にあたっては、米の新品種が数多くデビューする中、食の安全・安心により一層意識した管理を実施し、ひいてはラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックへの食材提供などを通じて、地域農業の振興とブランド力向上を目指し取り組みが始まりました。

今回認証を取得した「金色の風」は岩手県産米のフラッグシップであり、JAいわて平泉ブランド部会小野部会長からは「良い品質の米を作り、ブランド力向上に努めていきたい」と今後を見据えた決意表明がありました。JAでは地産地消を基本に地元での認知度向上を図りつつ、輸出も視野に入れて国内外へPRしていきたい、と今後の販売に意欲を示しました。



ASIAGAP団体認証のJAグループへの報告会。左からJA岩手県五連の小澤副会長、JAいわて平泉佐藤組合長、いわて平泉ブランド米の小野部会長、同会員の山本さん、全農いわての高橋副本部長

JAグループは平成29年にGAPの取り組み方針を決定し、JA全中、JA全農、JA共済連、農林中央金庫で取り組む「JAグループGAP第三者認証取得支援事業」によりGAPの団体認証取得に向けた現地アドバイスを行っています。



福岡マラソン、戸田マラソンで焼き餅配布

昨年続き、もちがマラソンに適した食材とPR 米穀部

全農は、全国のマラソン大会でランナーなどを対象に、もちがマラソンに適した食材であることのPR活動を継続的に実施しています。11月11日の「福岡マラソン2018」、18日の「戸田マラソン in 彩湖2018」(埼玉県)には昨年引き続き出展し、焼き餅の試食配布と国産もち米に関するパネル展示を行いました。

福岡マラソンのフルマラソンにはランナー1万1674人が出場し、福岡市天神から糸島市市交流プラザ志摩館前までの42.195キロを1万1304人が完走しました。ゴール付近に設置した全農のブースで「マラソンの栄養補給にはおもちがピッタリです」「国産の焼き餅をぜひご試食ください」という呼び声のもと、立ち寄ったランナーに焼き餅8000個を配布しました。

戸田マラソンには、首都圏を中心に約7000人の市民ランナーが集結し、市民ランナーやその家族・知人らへ3500個の焼き餅を配布しました。全農はもち米消費拡大に向けて、マラソン大会を中心に持久力スポーツにおけるおもちの相性の良さをPRしていきます。



福岡マラソンのゴール付近に設置した全農ブースで焼き餅を配布



市民ランナーや家族らに好評だった戸田マラソンの焼き餅配布



28年目の「中研フェア」を今年も開催

地域の方々を招き研究内容や国産農畜産物を紹介

飼料畜産中央研究所

飼料畜産中央研究所（茨城県つくば市）は11月10日、地域の方々への日頃の感謝と、研究所の取り組みを紹介するため、「中研フェア」を開催しました。

今年で28年目となる当イベントは、晴天に恵まれ、例年と同水準の465人の方に来場いただきました。

研究成果が詰まったジューシーで臭みがなく柔らかい、中研産「全農ハイコーSPF豚肉」と国産和牛の焼肉、パルライスのおにぎりや「農協牛乳」をふるまったところ、とてもおもしろいと好評でした。また、研究成果のパネ

ル説明や卵質測定の実演PRグッズ「ゼウシくん・みの太」のぬいぐるみや小冊子「おにくジャパン」を配布し、研究内容や国産農畜産物への理解を深めていただきました。

子どもたちには「紙飛行機飛ばし」や「スーパーパールすくい」などのゲームを用意し、秋空の下、家族や友達と笑顔にあふれた時間を過ごしていただきました。



全農ハイコーSPF豚を焼肉で提供



青空の下、「中研フェア」を楽しむ家族連れ



高校球児が台風被害の農家を支援

滋賀県JA東びわこ管内の農事組合法人で倒壊ビニールハウス撤去

広報部

「高校球児向け栄養教育プロジェクト」*の地域貢献活動として、滋賀県の彦根東高校の高校球児28人が11月11日、JA東びわこ管内の農事組合法人「きらり下之郷」を訪れ、9月の台風21号の影響で倒壊したビニールハウスの撤去を行いました。

JA東びわこ管内では台風被害で倒壊した大きなハウスの撤去作業が追い付かず生産者が困っており、全農が本プロジェクトでお米を提供している彦根東高校野球部に依頼し、JA東びわこが生産者と受け入れ調

整を行い、この取り組みが実現しました。

法人代表の坂東さんは「われわれは60代以上がほとんど。高校球児たちの若い力でどんどん作業が進んでいった。本当にありがたい」と感謝しました。

高校球児からも「台風で農家がこんなに困っていると初めて知った」「部活で鍛えた力が役立つのであればうれしい」「皆さんの応援を胸に野球を頑張る」などの感想があり、高校球児と地域との絆が深まりました。

*全農と立命館大学が連携して取り組むプロジェクト

2018年4月から、彦根東高校を含む4校でモデル実証中。全農が地元JAのお米を購入して高校球児に提供し、立命館大学がご飯を中心とした日本型食生活が高校球児の心身に及ぼす影響の調査を行う。また、高校球児は地域JAや生産者とのつながりを深めるため地域貢献活動を実施する。



台風で倒壊したハウスを撤去した彦根東高校野球部員と農事組合法人「きらり下之郷」の皆さん

営業開発部稼働から1年

営業先の課題に応じた 商品開発・産地開発



11月に開かれたJFフードバイヤーズ商談会での全農グループブース



JFフードバイヤーズ商談会で関連会社の商品を使ったメニューを提案

営業開発部は全農グループのバリューチェーンの構築、全農自己改革における販売事業改革の年次計画・数値目標実行をけん引するため、昨年9月に新設されました。事業部門・県本部・グループ各社とともに取り組んだ1年間の活動内容を紹介します。

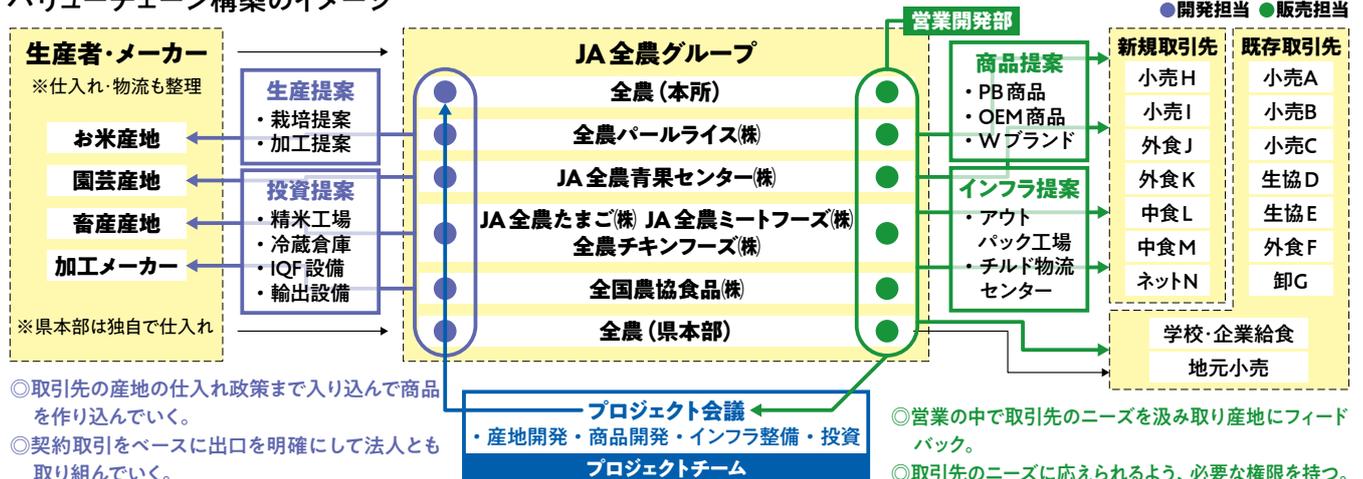
【営業開発部】

企業への営業強化・ 合同プレゼンの実施

営業開発部では、新たな売り場開拓30社、商品開発10商品を目標に、生協・量販店・コンビニエンスストア(CVS)・中食業者・外食産業・通販・ドラッグストアなどへの営業を進め、今年11月までに60社への営業、グループ合同での展示会出展(大阪・9月開催・フードサービスソリューションズフェア、東京・11月開催・JFフードバイヤーズソリューションズフェア)を進め、15取引先に8商品を導入しています。

また、営業先の課題に応じて、事業部門やグループ各社を横断した11のプロジェクトを立ち上げ、企業と共同で新商品や企画開発を行っています。今回は、その成果や新たな課題を、商品開発・

バリューチェーン構築のイメージ



産地開発の視点で共有させていただきま
す。

商品開発

国産果実の商品開発では、和歌山県
農、JA紀北かわかみの協力を得て、ダ
ノンジャパンと今年11月発売の「和セレク



ダノンと開発した和テイストの高級ヨーグルト



スギ薬局と共同で商品化
した「玄米パックごはん」

産地開発

シオン(ほうじ茶×干し柿)ヨーグルト
(参考売価188円税別)に取り組みま
した。全農は加工・業務用向け青果物
の開発を進めています。工場ラインへ
の対応として、①ヨーグルトに適した乾
燥度の調整、②異物(種含む)チェック体
制のマニュアル化などの新たな課題にチ
ームで取り組みました。主な販売先はフ
ァミリーマート(関東・関西地区)、ミニ
ストップ(全国)、全国の量販店、Aコー
プ和歌山となりますが、こうした経験
を他商品にも生かし、営業先・各地域
との取り組みを進めていきたいと思
います。

また、精米ではスギ薬局と共同開
発し、顧客の健康志向に応えた秋田県
産「あきたこまち」の玄米パックご
飯や特別栽培米、マツモトキヨシ
での米独自商品のテスト販売、
大手CVSへの弁当用米の提案、
給食業者との多収品種の契約
栽培、量販店総菜売り場の弁当
用冷凍米飯の開発を進めています。

青果物では、CVSの総菜・サンドイ
ッチ原料を輸入から国産原料に置
き換えることを目的に、種苗メ
ーカー各社の協力のもと、11
県・16JAと秋冬作の大型花
雷(からい)のブロッコリー(直
径18cm、重量700g~750g)の
試験栽培を進めています。営業
先から求め

られる商品作りを行うため、
茹(ゆ)で上がりの外観を考慮した
出荷規格(写真参照)、収量増・
規格簡素化、花蕾への虫などの
異物混入を防ぐ取り組みを行
い、大手CVSへの供給を開始し
ています。

また、精米では、寿司(すし)
チェーンのシシローに向けて握
り寿司に適した品種の産地開
発を行い、台湾の店舗にも
国産米を供給しています。

【ブロッコリーの出荷規格】

← 花蕾直径18cm →
※市場流通品：11~12cm

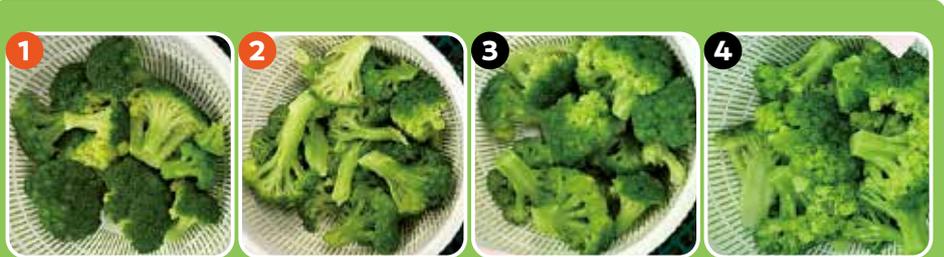


茎の切断面を茎の上端にすることで、
圃場での枝切り作業軽減

これからの取り組み

新たな売り場開拓において、未
取引商品の営業を加速するため、
①総菜を中心とした営業先各
社の売り場分析・戦略構築、
②営業先のエリア戦略・商品
戦略に呼応した商品開発・産
地開発を進めます。なお、加
工・業務用商品の生産

【原料を茹で上げた写真】①②は使用可、③④は不可



出荷可能(キャッツアイ少、締まり良好)

出荷不可(キャッツアイ多い、締まり悪い)

振興については、仕向け先ニ
ーズに基づいた品種、出荷規
格・期間が対応できるよう、
各地域での取り組みを深化
させます。

また、即食・簡便商品、健康
志向商品など、消費者ニーズ
に対応した商品作りを行うた
め、部門・県本部・グループ
会社、メーカー、商社・食品
卸との営業先別の部会を立ち
上げ、グループ内の商品開発
を進めます。



高圧ガス保安経済産業大臣表彰を受ける

保安上の措置が特に優れている事業所と評価

全農エネルギー(株)・燃料部



表彰を受ける坂出LPガス輸入基地の北村所長(左)



表彰を受けた坂出LPガス輸入基地職員の皆さん

全農エネルギー株式会社の坂出LPガス輸入基地が10月26日、高圧ガス保安経済産業大臣表彰を受けました。

経済産業省は、高圧ガスによる災害防止のための不
断の努力を重ね、著しい成
果を収めた優良事業所や、
高圧ガスの保安に関して永
年にわたり極めて顕著な功
績をあげた保安功労者に対
象に、毎年「高圧ガス保安
活動促進週間」の期間中に、
高圧ガス保安経済産業大臣
表彰を行っています。

このたび、香川県一般高
圧ガス保安協会からの推薦
により、全農エネルギー(株)
坂出LPガス輸入基地が、
高圧ガスの製造における保
安上の措置が特に優れてい
る優良製造所として経済産
業省から表彰されました。
これから冬場となり、L
Pガスの需要期が始まりま
すが、今後も保安の意識を
強く保ち、無事故操
業に取り組んでいき
ます。



LPガス担当者のスキルアップを支援

ガス機器メンテナンス講習を開催

営農・技術センター(燃料研究室)



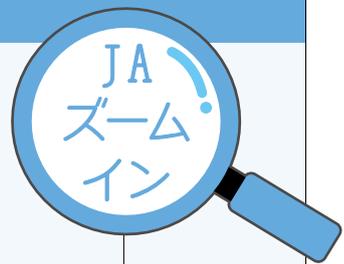
ガスコンロの安全装置について、実機を見ながら理解を深める参加者(第1回講習)



ガス給湯器の部品交換のために分解方法を学ぶ(第2回講習)

燃料部は、ガス機器メーカーの協力を得てガス機器メンテ
ナンス講習を年に2回開いています。今年度の第1回講習は
9月5〜9月7日に大阪(フーリツ)、第2回講習は11月14
16日に神奈川(パロマ)で開きました。
ガス機器の基本構造や作
動原理、搭載されている安
全装置について基礎から学
ぶとともに、一人一人実機を
分解して故障診断を行うこ
とで、実際の現場をイメー
ジしながらメンテナンス方
法を学んでもらいました。第
1回講習では、ガス機器製
造工場の見学や、ガスコン
ロを使った調理実演で、ガ
ス機器に対する理解をさら
に深め、営業時に役立つ情
報を得られるような内容と
なりました。

講習生からは「実機を使
用して故障診断をしたため
身についた」「学んだことを
職員で共有して生かしたい」
などの感想がありました。
来年度も同時期に開催を予
定していますので、皆さま
の受講をお待ちしています。
また、営農・技術センター
燃料研究室は、今回の講習
以外にもLPガス関連資格
の取得を目指す講習会も開
いています。詳しくは年度末
に発行予定の2019年度
講習計画を参照ください。



プロ野球日本シリーズ敢闘選手に

JA夢みなみ産農産物を贈呈

平成28年3月1日に福島県南地区3JAが合併し、JA夢みなみが誕生しま



敢闘賞に選ばれた広島東洋カープの鈴木選手にJAの特産品を贈呈する橋本組合長

した。JA夢みなみは、米を中心に、キュウリ・トマト・ブロッコリー・インゲン、梨・リンゴなどの園芸作物や、ユキヤナギ・ユリなどの花き、繁殖・肥育和牛などバランスの取れた農業地帯です。全品目合わせて、年間の販売高が約154億円です。

農産物販促に女性職員の夢ガールキャンペーン隊

年間を通して、JA夢みなみ産農畜産物の有利販売を図ることを目的に、京浜市場や関西市場、全国の量販店で橋本正和代表理事組合長を先頭にトップセールスをしています。また、今年度よりJAの女性職員で構成した農産物販売促進

員「夢ガールキャンペーン隊」を結成し、JA夢みなみ産農畜産物のPR活動を積極的に展開しています。それら消費宣伝の取り組みの一つとしてプロ野球日本シリーズの表彰選手に対して、JAの農産物贈呈をJA夢みなみ合併以前のJAしらかわ時代から行っており、今年で27回目となります。

今年「SMB C日本シリーズ2018」福岡ソフトバンクホークスvs広島東洋カープ戦で、敢闘賞に選ばれた広島東洋カープの鈴木誠也選手にJAの特産品を贈呈しました。表彰式で橋本組合長が鈴木選手に福俵と目録を手渡しました。鈴木選手には、今

JA夢みなみ(福島県)



後1年間を通し、白河産特別栽培米「コシヒカリ」と、季節の野菜・果物の詰め合わせ「四季の味」1年分をJAから届ける予定です。

PR活動積み重ねブランド確立へ

福島県では東日本大震災で起こった原発事故の放射性物質による福島県産農畜産物の風評被害は、依然として根強く残っています。JAとして地道なPR活動の積み重ねが風評被害払拭につながり、「JA夢みなみブランド」確立になると信じています。また、管内の生産者が栽培・生産した農産物が、一流プロ野球選手に年間を通して提供されるのが生産者たちの励

概要	平成30年2月28日現在
正組合員数	1万8782人
准組合員数	1万2144人
職員数	566人
販売品取扱高	153億3千万円
購買品取扱高	78億4千万円
貯金残高	1849億6千万円
長期共済保有高	8603億2千万円
おもな農畜産物	キュウリ、梨、畜産、 トマト、ブロッコリー、インゲン、花きなど

みとなつていきます。農業生産の拡大とひいては農業者の所得の拡大につながるよう今後もPR活動に取り組んで参ります。



球場の電光掲示板に表示されたJA夢みなみの敢闘選手賞

県本部 だより

新潟県本部

自己改革 実践中!



水稻用のJA県下統一肥料 「越後の輝き」シリーズ推進 特別栽培コシヒカリ向け肥料を集約

新潟県本部は、自己改革の一環として、特別栽培農産物コシヒカリ向け統一肥料を開発し、銘柄集約によるコスト低減に取り組んでいます。

県JA大会の決議で 研究会設け設計、実証

新潟県本部は従来地域特性に対応した専用BB水稲銘柄を推奨してきましたが、平成27年から「コスト削減策」の要望が出され、第37回JA新潟県大会（平成27年11月）で、施肥体系・栽培体系別の水稲用JA県下統一肥料への集約が決議されました。これをを受け、同年12月に系統経済事業推進協議会肥料農薬部会役員



全JAへ統一銘柄の出荷状況を報告

幹事会で、研究会設置を決定しました。研究会では、発足初年度に用途別の絞り込みと銘柄設計を行い、2年かけて栽培試験を実施、検証することにしました。具体的には、県内で最も需要の大きい、特別栽培農産物コシヒカリの元肥一発肥料（有機由来窒素が50%以上含む）を中心にターゲットを絞り、3要素の成分や肥効パターンについて検討しました。これは、東西南北に長い地理的な要素と平野部や中山間地を網羅するためです。そして、それぞれのJAに合った銘柄を試験選定してもらい、良好な結果を得ました。平成30年作用の予約注文書に過半数を占める17JAが採用し、初

年度で約8000ト（この分野の切り替え率52%）の出荷実績となりました。約90銘柄を7銘柄に集約10%を超えるコスト削減

この結果、コシヒカリ用の地域銘柄を含め約90銘柄あったものを7銘柄へ集約することができました。7銘柄のうち4銘柄は、省力的な元肥一発肥料です。3銘柄は被覆肥料を含まないう、元肥と追肥銘柄となっています。肥料の名称はJAからの公募で、艶やかな新潟米を作るイメージから「越後の輝き」と決定しました。

組みは県内の生産者からも高い評価と支持をいただきましたが、こだわりを持つ生産者には、土壌分析と生産者・JAを交えた協議によるオーダーメイド肥料を併行して進めています。また、この秋から新たな分野（園芸・水稲土づくり・果樹）での銘柄集約による一層のコスト削減に取り組む、省力化技術や施肥作業受委託を組み合わせた事業モデルづくりを検討していきます。

水稲用JA県下統一肥料 肥料袋の色・デザイン



越後の輝きシリーズ7銘柄の一覧表

[青果情勢]

(園芸部)



野菜

主力産地は関東以西

概況

12月も先月に引き続き、パレシヨ・タマネギなどを除き、西南暖地と関東産地を中心に出荷されます。

キャベツは、愛知・千葉・神奈川などが中心の出荷となります。台風24号以降、暖冬と好天のため、各産地とも豊作傾向となっています。出荷量は前年を上回る見込みです。

ハクサイは、茨城が中心の出荷となります。生育良好で、年末まで潤沢な出荷が続きます。出荷量は、前年を上回る見込みです。

レタスは、茨城から静岡・兵庫・香川などに切り替わります。関東産地の切り上がりはやや遅く、西南暖地などの生育は前進となっております。出荷量は、前年を上回る見込みです。

ダイコンは、千葉・神奈川などが中心の出荷となります。暖冬と好天から各産地豊作基調となっています。西日本産地も肥大進み、総体の出荷量は、前年を上回る見込みです。

ニンジン、は、千葉・埼玉などが中心の出荷となります。一部産地で台風被害がありましたが、生育は回復しており、太物中心の出荷となるでしょう。総体の出荷量は、前年よりやや多い見込みです。

トマトは、熊本・愛知・静岡などが中心の出荷となります。中京・九州産地は着果不良・着色が鈍い状況でしたが、現在回復傾向にあります。出荷量は、前年並みを見込みます。

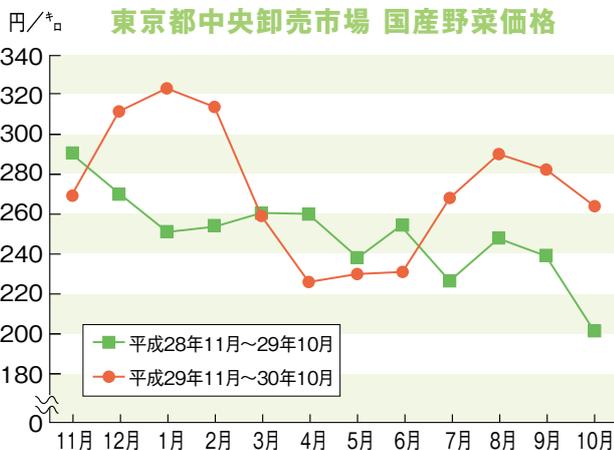
キュウリは、関東産地・西南暖地が中心の出荷となります。関東は一部切り上りを迎えますが、西南暖地は順調な生育となっています。出荷量は、前年並みの見込みです。

タマネギは、北海道が中心の出荷となります。出荷量は、小玉傾向から前年を下回る見込みです。

パレシヨは、北海道・長崎からの出荷となります。出荷量は、前年を下回る見込みです。

店頭

今月は特に、下旬にかけて冬至・クリスマス・年末商戦と売り場が活発に展開されます。冬至にはユズ・カボチャ・鍋物野菜・煮物野菜を中心に、クリスマスにはレタス・トマトなどの洋風の野菜を中心に、また年末には金時ニンジン・三浦ダイコン・クワイなど、この時期しか見かけない正月料理用の野菜も多数陳列され、野菜売場が活気づきます。



果実

ミカン・リンゴ・イチゴの最需要期

概況

12月はミカン・リンゴ・イチゴが最需要期に向けて各産地から出回ります。

ミカン類は、愛媛・長崎・熊本などが中心の出荷となります。早生種に加え、中旬からは中生種の出荷も徐々に開始されます。前年は中生種以降数量が少なかったですが、今年は潤沢な出荷となる見込みです。

リンゴは、青森・長野などから「ふじ」を中心に出荷されます。肥大は良好で大玉傾向ですが、台風被害などにより、出荷量は前年並からやや下回る見込みです。

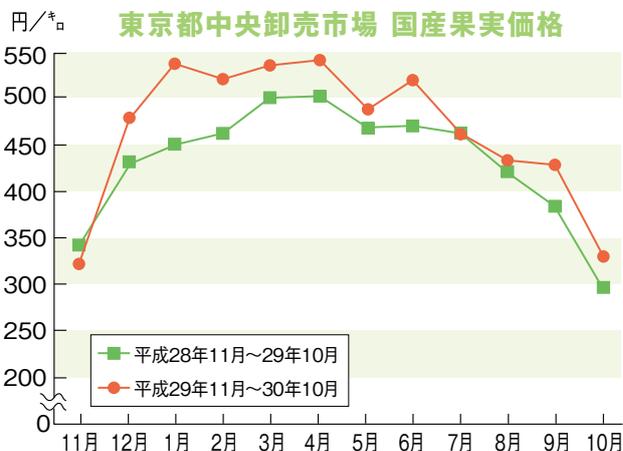
柿は、福岡・奈良などが中心の出荷となります。今月は貯蔵物の販売が主力となり、出荷量はおおむね前年並みとなる見込みです。

イチゴは、栃木・福岡・佐賀・静岡などが中心の出荷となります。11月以降天候に恵まれ、順調な生育となっており、出荷量はおおむね前年並となる見込みです。

西洋梨は、山形の「ラ・フランス」、新潟の「ルレクチェ」ともに小玉傾向で、台風の影響も受けていることから、出荷量は多かった前年を下回る見込みです。

店頭

12月は冷え込みが厳しくなり、冬至・クリスマス・大晦日などのイベントが連続することなどにより、家にいる機会が多くなり、ミカン・リンゴ・干し柿の需要が多くなる時期となります。また、クリスマスに向けてはイチゴを中心に果物売場が展開されます。



主産県 だより

11月は、イチゴ、レタス、ブロッコリー、トマト・ミニトマトの主産県が一堂に会し、作況見通しや販売対策の共有化、消費拡大の進め方について協議しました。今後も主産県による情報交換会等を定期的に開催し、出荷情報や販売情報の共有を図ります。

お断り 1月の青果情勢は休みます。

「旬鮮倶楽部」2019年度 カタログ完成

お申し込み
受け付け中です!

生活リテール部は、北海道から沖縄まで全国各地の旬の果実を中心に毎月ご家庭まで産地直送でお届けする頒布会事業「旬鮮倶楽部」に取り組んでいます。

JAグループの厳選果実や農畜産物加工品、スイーツなど約180品を取りそろえた2019年度版カタログが完成し、現在、皆さまのご注文を受け付けています。

【生活リテール部】

カタログには「産地特集」ページを設け、こだわり商品の特徴や産地情報をふんだんに盛り込むなど、読んで楽しい・選んでうれしい一冊に仕上げています。母の日やクリスマス、お中元といった歳時企画も充実しており贈答用としてもご利用いただけます。

全国の生産者が丹精込めて育てた旬の果実に、国産原

料優先使用のこだわり商品。皆さんもぜひこの機会にお試しください。

2019年度企画のご注文は、平成31年1月下旬まで全国の各JA窓口で承っています。

※一部取り扱いのないJAもございますのでご了承ください。
旬鮮倶楽部の問い合わせは全農生活担当部署までお願いします。



食と農のWEBマガジン

Apron
エプロン

Web限定の「レシピ検索」「菜園づくり」etc.
ぜひご覧ください!

Webマガジンは
こちらから

Apron Web 検索
<https://apron-web.jp/>



JAタウン
シヨップ紹介

JAタウン | 検索
クリック

にじ農業協同組合(福岡県)



JAタウンは
こちらから



博多あまおうイチゴGタイプ2P
(270gパック×2)……3000円

福岡県の南西部、大分・熊本県に接した秘境の地「うきは市」は日本百銘水「清水湧水」や、小説「水神」で知られる、水の豊かな地域です。豊かな水と、真面目な農家さんが作るイチゴ「あまおう」は、「あかい」「まるい」「おおきい」「うまい」の頭文字からその名がつけました。

見た目の赤さと大きさにまず目を奪われます。その「あまおう」を一口にすれば♪濃い甘みと、みずみずしさが口のちいっぴいに広がります♪そんなイチゴの王様「あまおう」を産地直送でお届け致します♪お歳暮やクリスマスギフトにもおススメです。

なお、ご紹介した商品は、12/21(金)まで、FAXでもご注文を承ります(ご自宅宛代金引換のみ)。
※天候などによりご希望に沿えない場合があります。

【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03-5218-2517までご送信ください。
商品代金の他、クール代、お届け先により送料がかかります。

JA全農のインターネット ショッピングモール ▶ご注文は <http://www.ja-town.com>
▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報、商品等の発送にのみ使用します。